



理事長
欠畑 誠治

日本耳科学会は、1991年9月に日本臨床耳科学会と日本基礎耳科学会の合併により発足しました。

現在会員は約2,700人で、前身の日本臨床耳科学会、日本基礎耳科学会を含めると約60年の歴史があります。現理事長は欠畑誠治先生で初代理事長の設楽哲也先生からは9代目になります。前理事長の村上信五先生は現在、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会の理事長を務めておられます。日本耳科学会が最も力を注いでいるのは、最新の知見や技術の共有と後進の育成です。

2021年10月、東京のヒルトン東京お台場で開催された第31回日本耳科学会総会・学術講演会のプログラムをいくつか紹介いたします。



左より欠畑理事長、小島会長、村上前理事長

シンポジウム、パネルディスカッション、テーマセッション

中耳、内耳基礎研究、内視鏡下耳科手術、難聴治療、人工聴覚器、遠隔医療、耳科学ベンチャー等、盛りだくさんのテーマで興味深い多くのセッションが開催され、各分野の第一線で活躍する若手からベテランの国内外の耳鼻咽喉科医、研究者たちによる熱い議論が行われました。

1. 内耳細胞の発生・成熟機構の解明

— 次世代治療への応用 —

内耳障害の病態解明と幹細胞・前駆細胞を用いた内耳再生への挑戦をテーマに、国内外のエキスパートたちにより最新の研究内容や知見が紹介されました。

2. 内視鏡下耳科手術のウィークポイントはこれで克服

— エキスパートはこうする！ —

近年急速に普及している内視鏡下耳科手術のポイントについて具体的な手技や解決策が提示されました。

3. 20年後を語ろう — 耳科学に込められた「夢」と「希望」 —

内耳再生医療、AIなどさまざまな視点から20年先の耳科学の発展と社会的貢献が議論されました。

若手公募テーマセッション

若手医師による5つのセッションが企画されました。次世代を担う若手医師が共演し、臨床、基礎研究、産学官連携と多彩なテーマで活発な討論が行われました。また、耳鼻咽喉科医師でありながら行政に出向して働くことの意義と役割が紹介されました。

会長講演

小島博己会長より「アナログな手術・研究に魅せられて」と題して会長講演が行われました。



教育関連セミナー

若手医師の教育を目的として、耳の解剖から生理、検査や手術について経験豊富な講師による8つの教育セミナーと側頭骨実体模型を用いたハンズオンセミナーが開催されました。



日本耳科学会賞、日本耳科学会奨励賞

優秀な研究・臨床を表彰する第4回日本耳科学会賞は東京大学の榎尾明憲先生(左)が受賞されました。また、優秀な論文を表彰する第27回日本耳科学会奨励賞は北野病院の三輪徹先生(中央)と日本大学の原將太先生(右)が受賞されました。



日本耳科学会は学会員の学術の向上や医療を通じた社会貢献のみならず、若い医師や医学生に対して積極的に耳科学の魅力を伝えること、女性医師が参画しやすい環境を整えることに積極的に取り組んでいます。